



会報

全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会

第 47 号

発行 者
全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会
会長 萬里小路伸一郎

事務局
京都府八幡市男山美桜5-27
昌玉研修会館内

印刷
山代印刷株式会社

守るPTA

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会

会長 萬里小路伸一郎



温暖化異常気象のせい、最近私たちの想定を越える災害が頻発しています。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

何十年ぶりの猛暑であるとか、観測史上初の豪雨など、これからは、私たちにとって未経験で想像しにくい事態にも備えていく必要があると思われまます。

想定しにくいことと言えば、今粛々と進めつつある「子ども・子育て新システム」の制度設計に思いが至ります。

「すべての子どもへの良質な成育環境を保障し、子どもを大切にす社会」を目指すこの制度は、まだ議論の最中で具体的なことは流動的であるとされていますが、その基本方針はすでに確定していると思われまます。

それは、幼稚園と保育所を廃し「子ども園」に一体化する、幼稚園教育要領と保育所保育指針を廃止し「こ

ども指針」に統合する、政府の所管・財源の一本化を図るため「こども家庭省」を創設する、などです。このほかに議論されるべき問題として、幼稚園教諭と保育士の資格制度や費用負担の問題、さらには、特別支援教育や小学生以上の児童生徒の放課後対応など議論が広範囲にわたって、私たち子育て現場の保護者と教師には、非常に想像しにくいものになっていきます。

しかし、想像できないから起こらないという話ではありません。

おそらく、百三十年を超えて育て上げられた日本の幼稚園教育と半世紀にわたる本会のPTA活動にとつて、経験したことのない最大の危機であると危惧します。

しかしながら、法律がどうあれ、制度がどうであれ、正しい子育てができるかどうかは、現場のわれわれ保護者と教師の責任です。

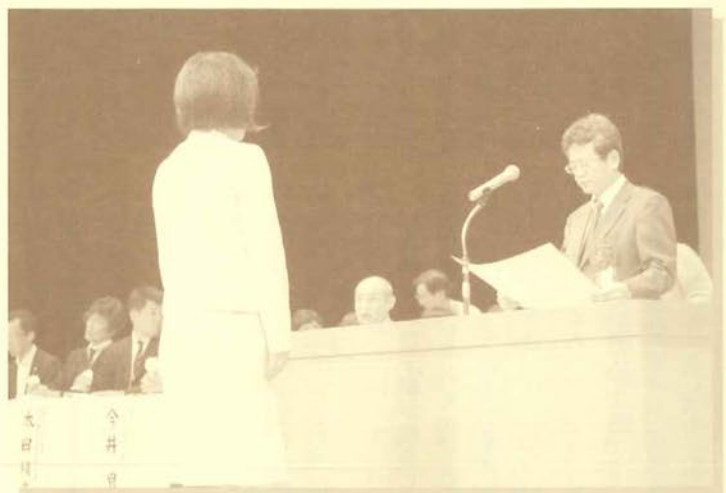
二十五年からは皆さんの幼稚園にゼロ歳児がいることを想定し、それでも今と変わらない幼稚園教育とPTA活動が続けられるよう、現場を守り禍福転為とするためのご尽力をお願いいたします。

本会もこの一、二年、その真価を問われる時期と捉え活動します。で、なお一層のご協力をお願いいたします。

平成22年度 優良PTA表彰 —— 文部科学大臣表彰 ——

平成22年8月6日、第48回全国国公立幼稚園PTA全国大会「愛媛大会」会場「ひめぎんホール」において、表彰式が行われた。次の8団体に、日頃の功績を称え、表彰状が送られた。

- 東京都 墨田区立緑幼稚園保護者の会
- 静岡県 静岡大学教育学部附属幼稚園PTA
- 静岡県 河津町立さくら幼稚園PTA
- 大阪府 大阪市立野里幼稚園PTA
- 兵庫県 養父市立八鹿幼稚園PTA
- 岡山県 美作市立美作北幼児園PTA
- 岡山県 総社市立総社北幼稚園PTA
- 香川県 宇多津町立宇多津幼稚園PTA



特別寄稿

みんなで子育て 楽しく子育て



全国国公立幼稚園長会
会長 池田 多津美

昨年十月後半の日曜日、東京都の

国公立幼稚園長会と東京都公立幼稚園PTA連絡協議会との共催で「子育て研修会」が開催されました。この研修会は東京都内のいろいろな地域を巡って開催しており、今回で第七回になるものです。親子参加型をコンセプトに、講演会やワークショップ、遊びを組み合わせ、一日を楽しく過ごせるようにしています。今回も開催区を中心に千三百名を超える参加者がありました。

折り紙、靴飛ばし、豆つかみ、けん玉等々、親子で寄り添い、一緒に楽しむその姿は本当に幸せそうで、何よりも子供の笑顔が輝いていました。

また、実はこの研修会の前日ですが、私の勤務園の近くの公園で、地域の児童館主催のお祭りが開催されました。この祭りには勤務園のPTA役員が「わたあめ」の店を出店：慣れない手つきではありますが楽しんでうにわたあめ作りに挑戦し、子供た

ちに手渡していました。

子育てを楽しむとは、一人二人の保護者の気持ち次第かな？忙しいと思えば忙しい、面倒だと思えば面倒です。でもいろいろ考えるより、「一緒に楽しもう！」の気持ちで大事ではないでしょうか。この二日間にもう一つ感じたことは、お父さんの参加の多かったです。子供に手を引かれてコーナーを回ったり、講演会のお話に傾ける姿、「おやじの会」のお揃いのTシャツを着て、大縄を回したり焼きそばを焼く姿に「おとうさん素敵！」と拍手を贈りました。

今、子育てへの負担感や孤立感を感じる保護者が増えていると言います。確かに二昔前よりも近所付き合いが少なくなり、幼稚園ママ同士も付き合い方が難しくなったように感じることがあります。でも、だからこそ、縁あつて同じ幼稚園に通うことになった保護者同士、みんなで子育て、楽しく子育てをしましょう。

その中核を担うのがPTAだと思えます。全幼P愛媛大会の研究発表でも素晴らしい実践報告がありました。その幼稚園の実態に合った活動を見出し、役員を中心に主体的に取り組んでください。私はよく役員の方々に言います。

「初めは誰も仕事の内容が分からないから不安です。でも皆さん、二年経って役員を終える頃には、さすが役員と周囲から見ても感じられる風格が備わります。それはお金では買うことができない財産ですよ。PTA活動を通して身に付けた力は、その後の子育てに必ず生きますよ」と。

園長の少々お仕着せの言い方ですが、過去出会った役員さん方は皆、素晴らしい役員として、同時に素晴らしい保護者としてお子さんの修了を迎えられています。

もう一つ、保護者の皆様にお願いしたいことに、幼稚園教育の重要性の理解と発信があります。少子・核家族社会の中にあつて、現代の子供の育ちの偏りが懸念されています。兄弟が少ないので家族の中で日常的に子ども同士が喧嘩をしたり助け合ったりする経験が少なく、幼稚園等の集団生活に入る前の基礎的な体験が不足しているのです。さらに安全への過度の配慮から、体を動かす体験も少なくなっています。しかし幼稚園に入れば当然子ども同士でけんかも

すれば、切り傷擦り傷もつくるでしょう。これを許せず子どもの喧嘩に親が出る事態が生じるのが昨今です。これでは人格形成の基礎づくりであり、体験を通して生きる力を身に付けるという幼稚園教育が機能しませぬ。

どうぞ、子供たちが自己を充分発揮して、友達と生き生きと遊ぶ中で、たくましく、賢く、思いやりの心をもつて育つよう、ご支援いただきたく願います。

私の前任園のPTA会報誌は年に二回発行されていましたが、その三月発行版に、次のような保護者の言葉が掲載されています。テーマは「我が子から学んだこと」です。

○「この子がいてくれたからこそ」の経験が数え切れないほどたくさんあり、その素晴らしさに感動と驚きを覚えます。そして、育児は育自だと言いますが、正にその通りだということを日々我が子から学んでいます。

○子どもから「ママは大きくなったなら何になりたいの？」と聞かれ、とてもドキッとしてました。子どものことだけでなく、自分の将来のこともちゃんと考えていかなければと思いました。

「子は親の鏡」で、特に自分の欠点がよく分かります。子どもに求めるのではなく、親自身が正すべきなのです。我が子であつても「子」ではなく「個」として向き合い、共に成長したいです。

○どんなことでも「ごめんね」の一言で許せてしまうことです。私たちが大人も、こんな大きな心をもてたらいいなと常々思います。

○子育てをして初めて、自分の両親が「いかに苦労したか」、そして「いかに可愛がつくれたか」を思い出した。

私はこの広報誌を読むたびに子育ての素晴らしさを感じます。そして、出会ってきた保護者の皆様が人として何と素敵な方々であつたか、という感動を覚えるのです。

子どもを産み、育てるといふ営みは、私たち人間が代々受け継いできた文化であり、これからも未来にないでいくべき貴重な財産であると考えます。

幼稚園時代は子供が成長した後振り返ったとき、「ああ、こんな時もあったのか」と、親子が密着して過ごすことができたかけがいのない時期であつたと思われるでしょう。どうぞ、子供あつての幼稚園生活です。みんなで子育てを楽しみ、心に残る思い出をたくさんつくっていたきたいと思ひます。

第四十八回全国国公立幼稚園PTA全国大会 総会ならびに研究協議会

— 愛媛大会 —

大会報告

いで湯と城と文学のまち、まちな全体が「屋根のない博物館」といわれる俳都、松山市において、愛媛大会が文部科学省をはじめ多数のご来賓をお迎えし、全国各地から、二〇〇人に及ぶ会員が参加して盛大に開催されました。開会式・総会に続き、シンポジウムでは大会主題「子どもたちの豊かな育ちを願って」伝えたい「愛」と「夢」と「おもてなしの心」に基づき、四園から豊かな子育てにつながるPTA活動の実践が発表されました。会場の参加者と二休となつて活発な意見交流もなされました。文部科学省の講話「これからの幼児教育」に続いて記念講演では、シンポジウムのコーディネーターの愛媛大学教育学部教授平松義樹氏が「教えること、育てること、そして、愛すること」子どもが育つ条件を考える」と題して、あい(愛)あい(合い)いっばい活動の実践など、子育ての具体的な方法がわかりやすく示され、子育ての指針を与えていただきました。

二期日会場

平成二十二年

八月五日(木)～六日(金)

大和屋本店
ひめぎんホール(サブホール)

三日 日程

八月五日(木)

・会計監査
・役員会
・理事会
・情報交流会

八月六日(金)

・開会式
・総会・講話
・シンポジウム
・記念講演
・閉会式



第四十八回「愛媛大会」 表彰状・感謝状受賞者(敬称略)

全国国公立幼稚園PTA
連絡協議会会長表彰

前全幼P副会長

全国園長会 池田多津美

前全幼P監事

千葉県 新村三枝子

前全幼P事務局長

京都府 中村初美

全国国公立幼稚園PTA
連絡協議会会長感謝状

岡山県公立幼稚園
PTA連絡協議会



平成二十二年活動方針 ならびに事業計画

一 活動方針

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、結成以来、日本の子どもの幸せと未来を保障するため、幼児教育の振興に、さまざまな形で寄与す

べく活動を続けてきた。

また、幼児の育成に関わるものとして、自らその責任を自覚し、資質と見識の向上に不断の努力を傾注してきたと自負するものである。

しかし、現下の幼児を取り巻く環境は、少子化、価値観の多様化に加え、世上の幼児教育に対する理解不足のため、看過できない問題が山積している。

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、学校教育・生涯教育の原点は幼児教育にあることを再確認するとともに、全国の国公立幼稚園においてなされている教育が幼児教育の最上のものであると確信している。私たち保護者・教師は幼児育成の直接の当事者である責任を認識し、全国国公立幼稚園長会との連携を密にして、以下の項目の実現を目指した行動の推進を活動方針とする。

記

- (1) 義務教育化を前提とした幼稚園教育の充実
- (2) 家庭・地域の教育力の再生・向上
- (3) 会員の資質向上と組織強化
- (4) 国公立幼稚園教員の待遇改善

二 事業計画

- 四月～五月
 - 加入園へ会費納入と愛媛大会案内状発送
 - 未加入園へ加入依頼書と愛媛大会案内状発送
 - 平成21年度会務報告と決算報告書作成
 - 平成22年度理事名報告依頼
- 六月～七月
 - 平成22年度陳情書作成
 - 全幼P全国大会(愛媛大会)後援名義使用許可願発送(園長会)
 - 愛媛大会の助言者依頼
 - 第61回全国国公立幼稚園園長会総会(兵庫)で本会発展の協力依頼
 - 陳情(文部科学省) 副会長会(東京)
 - 平成23年度「大阪大会」における提案発表について依頼
 - 第57回全国国公立幼稚園教育研究協議会「岩手大会」会長出席
- 八月～十二月
 - 会計監査、役員会、第1回理事会(愛媛)
 - 第48回全国国公立幼稚園PTA連絡協議会総会ならびに研究大会(愛媛)
 - 愛媛大会決定事項の処理
 - 会報(47号)原稿依頼
 - 第49回全国国公立幼稚園PTA全国大会実施説明会(大阪)
 - 全幼Pアンケート実施
 - 平成23年度活動方針、事業計画書案と予算案作成
 - 第2回副会長会、理事会(京都)
 - 理事会での検討事項の処理
- 一月～三月
 - 会報47号発行
 - 未加入園へ加入呼びかけ
 - 平成22年度会務報告と決算の中間報告書作成
 - 第3回理事会(東京)
 - 理事会での検討事項の処理

月日	摘要	月日	摘要
4月3日	●入会並びに会費納入についての文書(加入園・本会入会文書)未加入園へ発送 ●平成21年度理事名報告依頼(都道府県事務局) ●岡山大会開会式臨席と祝辞依頼(文部科学大臣・全国園長会長) ●岡山大会開会式臨席依頼(文部科学省 全国園長会長・全幼P顧問) ●岡山大会最終案内発送(全幼P顧問 役員) ●岡山大会について後援名義使用許可申請書提出(全国園長会長)	11日	●全国大会礼状発送(文部科学省・全国園長会長・全幼P顧問大会開催地) ●会報(46号)原稿依頼 ●第2回理事会案内状発送 ●全幼Pアンケート実施依頼状発送(愛媛県から加入園へ)
5月1日	●岡山大会研究協議会助言者推薦依頼(文部科学省 生涯学習政策局長) ●岡山大会研究協議会助言依頼(全国園長会長)	10月7日	●第48回全国国公立幼稚園PTA全国大会愛媛大会実施説明会(愛媛県) ●文部科学大臣表敬訪問
6月2日	●陳情並びに副会長案内状発送 ●陳情について依頼(文部科学省 他) ●第60回全国国公立幼稚園PTA連絡協議会研究大会「愛知大会」に会長出席(愛知) ●第1回理事会並びに役員会開催案内状発送 ●平成21年度陳情書発送(加入園)	10月21日	●第2回理事会開催(京都市) 1 平成21年度「岡山大会」について 2 平成22年度「愛媛大会」について 3 今後の全国大会開催案 提案案について 4 平成22年度活動方針・事業計画について 5 平成22年度陳情項目(内容)について 6 アンケート調査について 7 プロジェクト別会議 8 その他
7月3日	●平成22年度「愛媛大会」における提案発表について依頼(徳島・高知・滋賀) ●陳情並びに副会長案内状(東京) ●陳情先 文部科学省 総務省 ●副会長(東京) ●平成21年度優良PTA文部科学大臣表彰表彰彰体(顕表受領(文部科学省)) ●第56回全国国公立幼稚園教育研究協議会「長崎大会」(会長出席(長崎))	1月14日	●愛媛県庁松山市庁表敬訪問 ●文部科学省 委託事業説明(会長・愛媛大会 西松運営委員長出席) ●愛媛大会第2次案内・岡山大会集録会報46号 発送 ●(文部科学省・日本PTA全国協議会・全国高等学校PTA連合会・全幼P顧問 役員・理事) ●第3回理事会案内状発送
8日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(岡山)	2月22日	●会報46号発送(岡山・愛媛大会事務局・寄稿者・全幼P加入園各園長会長 他) ●大阪大会開催について依頼(大阪大会矢原運営委員長)
8月6日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(岡山)	2月22日	●会報46号発送(岡山・愛媛大会事務局・寄稿者・全幼P加入園各園長会長 他) ●大阪大会開催について依頼(大阪大会矢原運営委員長)
24・25日	1 平成20年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成21年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告 5 次期大会開催地提案案について 6 役員改選	3月5日	●第3回理事会開催(東京) 1 平成22年度愛媛大会について(大会宣言 文案) 2 平成21年度会務決算中間報告 3 平成22年度活動方針・事業計画(案)について 4 平成22年度予算(案)について 5 平成22年度陳情について 6 表彰状・感謝状受賞者について 7 平成23年度大阪大会について 8 平成24・25年度提案案について 9 その他
7日	●第17回全国国公立幼稚園PTA全国大会(岡山大会)開催 ●第2回全国国公立幼稚園PTA連絡協議会研究大会開催 (開会式・総会研究協議・特別記念フォーラム・閉会式)		

大会宣言

全国国公立幼稚園PTA全国大会は今年で四十八回を数えます。この間、私たち国公立幼稚園PTAは、時代の変化とともに到来する様々な教育課題に対し、多くの方々を力合わせてその解決に努めて参りました。

しかしながら、現在、子どもたちを取り巻く私たちの社会は、深刻な経済危機、またそこから派生した様々な格差の急速な広がり、さらには核家族化・都市化・少子化に伴う家庭・地域の教育力の低下等々、かつて経験したことのない厳しい状況に直面しています。

このような時代においては、子どもたちを支える立場にある家庭・地域・幼稚園には、それぞれの役割と責任についての一層の自覚と、互いの連携に努め、社会総ぐるみで子どもたちを守り育てていく体制づくりのために協力していくことが求められています。

今こそ、私たち国公立幼稚園PTA会員は、一人一人がこの実現のためのキーパーソンとしての自覚を持ち、それぞれの地域において、より多くの方々を手を携え、子どもたちの健やかな育ちのための強力な応援団となって協力していかなければなりません。

本大会では、「子どもたちの豊かな育ちを願って」を大会主題に掲げ、サブテーマを、四国八十八ヶ所の要所としての愛媛が大事にしてきた他者への思いやりの心を中心において、「伝えたい、「愛」と「夢」と「おもてなしの心」と、いたしました。これは、愛媛に込められた「愛」と、人々を未来に向けてつなぎ結び合う「夢」と、お遍路さんへのお接待に込められた「おもてなしの心」の、三つのキーワードを基本に据え、自分を大切にしつつも相手の心に寄り添うことの美しさ、「夢」と「希望」をもってやさしくたくましく生きることの大切さを表しているものであります。

この理念は、未来を生きていく子どもたちに是非とも伝えたい私たちの願いであり、それぞれの家庭・地域・幼稚園で大切にしたい文化であり、これからの国公立幼稚園PTAがめざす方向でもあります。ここに、この理念に基づき、第四十八回全国国公立幼稚園PTA全国大会愛媛大会の名において、次の決意を宣言いたします。

- 一 家庭・地域・幼稚園の教育環境の充実に貢献します。
私たちは、幼児が成長する過程において接するすべての環境に留意し、とりわけ直接幼児の教育環境となる家庭・地域・幼稚園の三者が有機的に機能するよう支援します。
- 一 PTA活動を通して生涯学習意欲を高めます。
私たちは、幼児の健全な成長が、大人の日頃の見識と行動によるものであることを強く認識するとともに、不断の努力により、私たち自身が成長を続けることの一助となるPTA活動を創意工夫します。
- 一 PTA組織およびその運営の充実に努めます。
私たちは、上記の二つの趣意を全うするために、本会、各PTA連絡協議会並びに各単位PTA組織の充実に努めるとともに、行政機関及び様々な社会教育関係団体と連携して、より幼児教育が深まるようなPTA活動の運営に努めます。
- 一 幼児の安全確保と幼稚園の安全管理を強化します。
私たちは、幼児が安心して生活できるよう、安全確保に向け、施設・設備の改善および管理体制の充実を関係当局に強く要望します。
- 一 幼稚園教育の義務化と幼児教育諸条件整備を訴えます。
私たちは、少子高齢化が進み、子育て支援の在り方が多様化する中で「幼稚園教育の義務化」「三歳児保育の推進」「公立幼稚園未設置市町村の解消」「国公立幼稚園教員の待遇改善」等を関係当局に強く要望します。

平成22年8月6日

第48回 全国国公立幼稚園PTA全国大会 愛媛大会

シン・ポジウム

提案発表Ⅰ

育てよう モリモリ 食べる 元気っこ 〜楽しい食事〜

高知県越知町立越知幼稚園
20年度PTA会長 犬飼 美佳



一 はじめに

高知県の中部の山間部に位置し、自然環境に恵まれている。越知町でも少子化が進み、幼稚園・保育園・小・中学校ともに各園、一校ずつである。本園は、三・四・五歳児クラスずつで、園児数四十四名、四十二世帯の小規模園である。

二 「食育」の取組

平成十九年度から、「食事を楽しい」と感じるための取組をしてきた。二年目は、年目の反省と課題を基に、五感を通した豊かな経験を、身近な人と関わりながら楽しい雰囲気、食事を、おいしく食べるための生活リズムづくりの三つの目標を立てて取り組んだ。「なかよし農園」での野菜の栽培、収穫。地域の活性化を目的とした「お

となの学校」との交流。早寝早起き朝ごはんの生活のリズムを整えるための「早寝早起きカレンダー」の取組、また、家庭・園・地域での取組を「PTA通信」で各家庭へ発信している。

三 おわりに

「食育」とは、すぐに結果が出るものではなく、子どもの変化・成長を見守りながら、保護者自身も一緒に成長していくものだということに気付いた。この研究は、子どもたちが大人へと成長していくまでの永きにわたる取組の始まりであると考え、これからも続けていきたい。

提案発表Ⅱ

やわらかな心でふるさとを愛し、「夢」に向かおうと羽ばたく子どもに 〜地域・保護者・幼稚園の愛に包まれて〜

徳島県阿波市立久勝幼稚園

PTA会長 小松 隆



一 はじめに

本園は、地域の方々と密接なつながりがあり、農業後継者クラブの方々の米作り体験、民生児童委員の方々による昔遊びの提供とわらをなつて

のリース作り、地域の高齢者とのふれあい交流会、久勝地区大運動会への参加、ボランティアグループ「お話しべるの会」による絵本の読み聞かせなど、様々な支援や協力をいただいている。

二 親子でカレーパーティー

子どもたちが収穫した野菜を使っての親子カレー作り参観日が十二年続いている。PTA活動が、家族と家族のふれあいの場となり、会員の親睦を深める場になっている。

三 もみまきから餅つきまで

農業後継者クラブの方々の支援を受け、もみまき、田植え、稲刈り、餅つきまでの体験をしている。

四 愛育作業

園庭、園舎の環境整備をし、その後、子育てについて会員の交流の場になっている。

五 おわりに

子どもたちは、地域の方々に温かく見守られているという実感をもつことができている。この実感は子どもの自尊感情を高め、ふるさとを心地よいものとして心に残り、「ふるさとを愛する子ども」に育つことを期待されている。それは、将来に向かって「夢」を持ち続ける力になると考える。

提案発表Ⅲ

まなぶ あそぶ さんかする 〜「話」と「和」が広がり ひびきあう西幼PTA〜

滋賀県長浜市立長浜西幼稚園

園長 川崎 悦子



一 はじめに

滋賀県の北部に位置し、琵琶湖や余呉湖、緑豊かな山々など自然豊かな地域である。当初は、長浜北幼稚園分園だったが、分譲住宅が増えてきたこともあり、平成十四年から西幼稚園となった。園児数六十八名、六十二世帯である。

二 PTAの組織・運営

本部を中心に、研修委員会(ハザー、子育て講演会他)環境福祉防犯委員会(環境整備、親子でいっしょ夕涼み会他)保健体育委員会(徒歩遠足付き添い、運動会他)広報委員会(広報発行年五回)の四委員会に分かれて活動している。

三 親子で参加、ともに遊び、ともに学ぶ活動の実際

「親子でいっしょ夕涼み会」「環境整備奉仕作業」「長浜西幼稚園PT

Aハザー」の紹介

広報「ぼかぼか」では、広報委員が取材し、集団の中でここに「元気に、じっくり根気よく、みんなで仲よく取り組んでいる姿や表情を大事にしている。

四 おわりに

同じ子育て世代の保護者同士、様々なことを乗り越えながら、共通の活動の中から親しみがわき、支え合いができていく。PTA活動は、子どもを通して親同士響きあえる関係づくりの場でも感じている。

提案発表Ⅳ

園児が楽しい園づくり・ 保護者に優しい園づくり

愛媛県大洲市立喜多幼稚園

21年度PTA会長 是澤 充広



一 はじめに

愛媛県の西部、大洲市のほぼ中央に位置している。保育所・小学校・中学校・高等学校などの教育施設や高齢者保健施設が近くにあり、交流体験や交流学習を頻繁に行っている。

PTA活動の中で、続けてほしいところと変えていきたいところを随時検討し、子ども・保護者・教師に喜ばれる園をつくっていくきっかけとなる年になるよう、一年間積極的な活動を試みた。

二 実践報告

夏祭りは、平日の九時から行われていたが、十六時からの実施としたことで、普段幼稚園にいないはずの時間帯に家族や友達とコミュニケーションをとることができ、楽しい夏の一時となった。学芸会では、場所取りのことを考慮して、二部制にした。

大洲農業高校との交流では、高校生が幼児の面倒を見てくれていた様子に参加している保護者が見て、対応のすばらしさに感心している。

三 まとめと課題

自分自身が楽しんで行事を企画し、運営参加するということが大事であると強く感じた。役員やPTA活動のイメージを変えていくべきである。どこでもやっていることを、子どもをこのことを考え、保護者のことを考えて園と連携、協力し合って活動することが一番大事だと考える。



コーディネーター

愛媛大学教育学部教授

平松 義樹様



四人の発表から、印象に残ったことを伝えて、終わりにしたい。

子どもが頑張る姿を見て、保護者の意識改革ができる。親の後姿を見て子どもは育っていく。本物との交流、「まなぶ、あそぶ、さんかするのキーワード」、子どもを楽しませるだけでなく、自分も楽しみながらPTA活動に前向きに取り組むことが子どもたちにとって、豊かな育ちにつながっていくことになる。子どもの生活に密接に結びついた活動の中でRSTの学び（ルールがあつて役割を自覚すること、組織で動くこと、スペシャリストであれということ）を、子どもも保護者・教師がしている。

課題を一つ、体験で終わるのではなく、体験から経験への仕掛けをどうするか、体験で気付かせ、考え、行動する、教師・保護者の皆さんのプロとしての仕掛けはどうあるべきなのか、大阪大会につないでいただけたらと思う。

指導助言 I

文部科学省生涯学習政策局 社会教育課長

塩見 みづ枝様



共通して感じたのは、地域との連携、会員全体を巻き込んで活動しようとするところ。また、これからのPTA活動のあり方を考えるヒントを与えていただいたと思う。

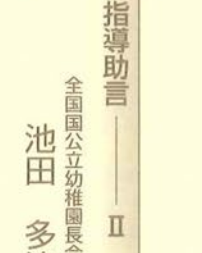
「熟議」という言葉を聞いたことがありますか。これは当事者が熟論をして直接討議を重ねることによって良い解決策を見出ししていくという考え方。文部科学省でもこの「熟議」という考え方を政策の中に取り込んでいくといういろいろな試みをしている。文部科学省のホームページに「熟議の掛け合い」というサイトをもうけている。

今日のお話を聞いていて思ったのは、PTAの活動はまさにこの「熟議」の原点ではないかということ。皆さんが、子どもたちや地域をよくするためにどうしたらよいかという課題に、熱心に取り組んでいるところが、この「熟議」そのものの考え方だと思つた。

指導助言 II

全国国公立幼稚園長会会長

池田 多津美様



国立幼稚園のPTA、保護者の力が子どもたちを豊かに育てているということを実感した。

☆高知県越智町立越智幼稚園
PTAが一部の保護者だけでなく、保護者全体の取組になつていくことが大切だと思う。幼稚園教育に保護者をどう引き込んでいくかということに、PTAの活動を通して働きかけていくことは大切。ただ、それぞれの家庭に、その家庭の事情、個人の考えがあることを配慮して、自ら行つてみようという気持ちになるようにすることが大事。

☆徳島県阿波市立久勝幼稚園
親子が共通体験をしていく価値を感じた。家庭で共通の話題がもて

境になるように、行政側の方としてもできる限りの応援をさせていたいただく必要があるということを感じた。子どもたちの心を温かく柔らかくして、子どもが功を奏して、子どもの豊かな育ちを促していくと思つた。

☆滋賀県長浜市立長浜西幼稚園

幼稚園にデビューする不安や孤立感を感じたときに、先輩の保護者が声をかけて安心感をもてるようにすること。子どもたちの育ちをPTAの活動にうまくつないでいると思う。心に響いて子どもたちが活動していくところに豊かな育ちというものがあるのかなということを感じた。

☆愛媛県大洲市立喜多幼稚園

お父さんに教育参加してもらうこと、PTA活動をするとき、目的をもつてすることは非常に大事だと思う。幼稚園に課題を提供して、うまく解決の方法を提案していただくことがすばらしいと思つた。

◎活動はたくさんでなく心に響かせながらやることが大切で、そのときには、大人のかかわりの中で子どもは体験したことを経験ということでも積み上げていくのだと思う。幼稚園時代につけた力は、地域コミュニケーションの基盤づくりになる。

講演 記念

教えること、育てること、愛すること、子どもが育つ条件を考える

講師 愛媛大学教育学部教授 平松 義樹氏

「あたま・からだ・こころ」を育てるために
「子育て・子育て・親育ち」を考えてみましょう



社会において頭がいいというのは、物知りではなく、機転が利くとか考える力が大事なのです。

虐待の話、十四歳の少年がバスジャックをした話、秋葉原事件…また、不登校の子どもの話などから子どもたちは言葉でしゃべりきれないところがある。登校不安による腹痛は器官言語、先生の注意をひき注意してほしい行動をとるのは身体言語です。言葉にして表すだけでなく、その向うにあるものを、私たちはプロとして聞き取る精度のいい心の聴診器をもたないといけないと思えます。これは、幼稚園教育者や保護者の皆さんも是非ともお願いします。「あいづちをうち、そうなんだ、なるほどね、たしかに」これだけの言葉で、お互いの人間関係がよくなり、また、合い合い言葉「感じ合い、認め合い、和み合い、学び合い、教え合い、育ち合い」この環境を園でも、地域でも、各家庭でも育てていただけたらと思います。

二 「からだ」の問題を考える

文部科学省の調査で、「平日の二十四時以降に就寝する」「朝食を食べない」「休日のテレビやビデオ・DVD視聴三時間以上」の子どものデータが出ています。また、子どもが外で遊ばなくなった、遊べなくなったのかもしれない。このような社会環境を私たちは、どう解決していかなければならないのでしょうか。

午前中の文部科学省の講話で「遊びをもう二回考えよう」ということがありましたが、大賛成です。「カイヨワ」という人が、遊びには競争の遊び、偶然の遊び、模倣の遊び、めまいの遊びがあり、これらの遊びは、人生の大事な基本的なもの、生きる根っこを育てるという研究をしています。幼稚園の先生や保護者の皆さんは、遊びは人生の資質を育てているんだというまなざしで見てください。

四 子どもが育つ条件を考える

子どもが育つためには、生きることの意味、人生というのは自分への挑戦だということを親御さんが見せることが大事だと思います。人生は、自分がどう挑むかによって決まると思っています。教育や知識において親が子より劣っていないように、流行の歌を歌えなくてもそれはた

わない、これだと思います。私は、今皆さんの前に出て、こんな風に話をさせていたたいと思いますが、小学校時代はいじめられて勉強もできない、スポーツもできない、どうしようもない少年でした。そんな自分に、父親が「…いろんなことを一生懸命やつていないことが寂しい。結果はいから、何事にも努力してほしいな」「あせらず、あなどらず、あきらめず」「…夢だけは持ち続けていなさい」などの言葉をくれました。人様より少し早く走れること、少しテストの点がいいこと、少し出世が早いこと、そんなことはどうでもいいことです。日常生活の中に何より大切なことがあり、それを親御さんに見つめ合って語り合ってほしいと思えます。子育てとは、子どもの育つ道筋に沿って、念入りの配慮をすることで子どもが育つ道筋は、転びながら転ばなくなつてきます。こぼしながら、こぼしながらこぼさなくなつてきます。あんなにしてやつたのに、「のに」がつくと愚痴が出てきます。人間は自分が好きな人、しかも尊敬する人のみから、文化・伝統を受け継ぐことができますようにプログラミングされているのです。お父さん、お母さん、幼稚園の先生、好きで尊敬される人になつてください。

松山は今、「坂の上の雲」ブームなのですが、このタイトルは、「のぼっていく坂の上の青天に、もし一朶の白い雲が輝いているとすれば、それのみ見つめて坂をのぼつてゆく人たちの物語」からきています。私たちは、戦後豊かさを求めて歩いてきました。明治時代は「朶の雲」が身近にあったのですが、現代の子どもたちの「朶の雲」って一体何なんだろう。明治時代の日本人が坂の上の雲を見つめて、生きがいと誇りをもちながらひたすら欧米の先進文化に追いつこうと努力し、戦後もまたよりよい暮らしを求めて、ひたすら坂をのぼつてきました。そこで見た「朶の雲」って一体何だったのでしょうか。

結論を先に申し上げるならば、まず二つ目は、子どもの夢を夢として膨らませてあげてほしいということ。二つ目は、一人ひとりの命の根っこを育てる教育を今一度真剣に考える必要があると思います。三つ目の結論として、知識をたくさん持っている、物をたくさん持っていることは、確かに大切なことですが、大事なことは、一人ひとりの存在そのものが豊かであるということではないでしょうか。

一 「あたま」の問題を考える

知識基盤社会でどのような人材を求めているかというと、「地頭力」のある人間、簡単に言うところ「考える力」ですね。これからの、知識基盤

三 「こころ」の問題を考える

は人生行路の先達であることを失

平成二十二年度 陳情報告

平成22年7月7日、全幼P万里小路会長、全国国公立幼稚園長会長、事務局長、全幼P役員、愛媛県理事の計14名が午前10時から文部科学省へ陳情を行った。

文部科学大臣は不在であったが、ご多用の中、坂田事務次官、片山主任社会教育官、神代社会教育課長、濱谷幼児教育課長の皆様にお目にかかり、温かく対応をしていただき、幼稚園の現状に深いご理解をいただいた。

また、10月28日には、万里小路会長が日P会長、高P会長と共に大臣表敬訪問に参上し、高木義明文部科学大臣、笠浩史文部科学大臣、政務官には、ご多用の中対応していただき、なごやかな雰囲気の中、PTA活動に對して、ねぎらいと激励をいただいた。(下に陳情書の全文を載せる)

要望事項

一 国策として、幼稚園教育振興・充実を図っていただきたい。

公立幼稚園未設置市町村が、全国で八七四(四九%)あります。これから未設置市町村を解消し、幼稚園

教育を希望するすべての幼児が完全に就園できるよう、次の項目を強く要望します。



- 1 市区町村に對する公立幼稚園設置義務化のための法整備
 - 2 三年保育の実施拡大
 - 3 財政難を理由にした幼稚園の統廃合抑制・民営化の阻止
 - 4 幼稚園における子育て支援及び預かり保育のための財政措置
- 二 幼稚園教育環境の整備・拡充を図っていただきたい。
公立幼稚園は小・中・高等学校と

教育環境において様々な格差があります。幼稚園教育充実のため、人的、物的、及び、制度的環境の整備拡充がなされるよう、次の項目について特段のご高配をお願いします。

- 1 専任園長・教頭、養護教諭、事務職員の配置
- 2 発達の特性に応じたきめ細やかな指導をするための教員数の確保
- 3 都道府県及び市区町村教育委員会に於ける幼児教育専門の指導主事の配置
- 4 安全管理・危機管理の人員・施設・設備等の改善
- 5 幼稚園施設の耐震化推進

三 国公立幼稚園教員の職責にふさわしい処遇を図っていただきたい。

人間形成の基礎を培う重要な幼児期の教育にかかわる幼稚園教員の待遇改善と、資質向上を目指し、次の項目実現のための制度を確立してください。

- 1 幼稚園教員に對する教育職俸給表の適用
- 2 ライフステージに応じた研修経費の確保

平成二十三年 理事会報告

第二回

期日 八月五日(木)

場所 松山市 大和屋本店

準備万端行き届いた会場で、和やかな中にも熱気あふれる理事会であつた。

万里小路会長、池田園長会会長

挨拶の後、西松運営委員長から愛媛大会の概要説明があり、続いて議事に入つた。平成21年度会務・決算報告、本年度活動方針、事業計画、予算の報告、優良PTA文部科学大臣表彰、会長表彰、会長感謝状贈呈者について報告。次期大会開催地大阪より取組の説明があり、平成23年度提案県等について協議が行われた。

役員改選については、各ブロックから選考委員を選出後、委員により役員が選出され、理事会で報告された。

第二回

期日 十一月十七日(水)

場所 京都市勧業館みやこめっせ

万里小路会長、池田園長会会長挨拶の後、愛媛大会運営委員長からお礼の挨拶があり、成功裡に終わったことを確認した。会長より「ことも子育て新システム検討会議」に関

する本協議会の対応について提案され、今後執行部に二任することが承認された。次期開催地大阪大会矢原運営委員長から概要の説明があり、多数参加を呼びかけられた。引き続き、平成23年度の活動方針、事業計画、陳情書の各案、平成24・27年度の大会開催地等について協議が行われ、東京都・島根県・秋田県に続いて愛知県が確定した。

第3回は、平成23年3月2日(水)、東京都国立オリンピック記念青少年総合センターに於いて開催の予定



おめでとう

全幼P全国大会「愛媛大会」で、幼稚園の優良PTAとして、栄えある文部科学大臣表彰を受けられた8団体の中から、紙面の関係で、ここに三園のPTA活動を紹介します。

つながりを深めるPTA活動

東京都墨田区立緑幼稚園
保護者の会長 北岸 陽子

この度は思いもかけず、文部科学大臣表彰という大きな栄誉を賜り、誠にありがとうございます。保護者の会員、教職員一同とても喜んでおります。すべては歴代の先輩方が園児たちと共に長年に渡り築いて来られた良き伝統を評価して頂いての事と、感謝の思いでいっぱいです。

私どもの幼稚園のある東京都墨田区は現在、世界一のタワーとなる東京スカイツリーを建設しており、相模と江戸文化の街として、注目を集めています。下町の人情味あふれる地域性と、交通の便も良好立地のせいか、この緑地域は墨田区で一番マンションが多い地域でもあります。しかし、地域の町会活動はとも活発で、地域ぐるみで園児たちを育

むような温かさが感じられるところ
です。

緑幼稚園は四歳児、五歳児各クラスの小さな幼稚園ですが、「人とのつながり」を特色とし様々な人々との交流が行われています。

【親子のつながり】

緑幼稚園では年間を通して親子のつながりを重視した活動を様々行っています。親子米作りがその一つです。狭い園庭のため一人一個のバケツに泥田を作り、稲を植えるのですが、春に泥田作り、田植えを親子で行います。秋には実ったお米をはさみで刈り取り、手作業で脱穀して、親子おにぎりパーティーで頂きます。

自分たち
で育てた
お米の炊



きたての塩むすびの味は格別です。七月には夕涼み会があります。保護者の会が知恵を出し合い、毎年楽しい「縁日」を企画し、親子でお店やさんごっこを楽しみます。

【地域とのつながり】

地域の皆様のお力を借りる場面も多くあります。

まずはお月見会。地域の敬老会が園児と共にお団子を作って一緒に食べたり、コマなどの昔懐かしい遊びを教えてくれたりします。

また、地域の舞踊の先生に「墨田音頭」を習い、夕涼み会や運動会、連合町会の盆踊りで踊ります。

餅つき会には何年も前の卒園生の祖母の方にごて頂き、火加減をみてもらいます。かまども薪も扱ったことのない若いお母さん達にとっては知らないことを教えて頂く絶好の機会です。地元の相模部屋の若い衆が、保護者に交じって力を奮ってくれることもあります。こしのあるお相撲さんがついたお餅は本当に美味しいものです。

【保護者の研修会】

他にも、同じ敷地内にある緑小学校の児童たちとの日々の交流や、学区の両国中学校の吹奏楽部とのジョイントコンサートで園児が歌う機会を持たせて頂いています。中学校へ出向く際には、保護者の会が交通安全の見守りの手伝いをしています。

保護者が子育てについて学ぶ機会をもつために、毎年講師を招いての勉強会を行っています。その名も「両親大学」といい、墨田区の補助事業を活用しています。園の保護者のみならず区内の他園の保護者や地元の方もお招きして、地域ぐるみで子育てスキルを上げていくものです。

また、文化講習会では会員の特技を生かした「羊毛フェルトマスコット作り」や「フラダンス講習会」等々、「ママ先生」の隠れた才能を発掘しながら親睦を深めています。その中から、修了生の保護者による音楽グループが誕生し、毎年クリスマスお楽しみ会でのミニコンサー

トも実施されるようになってきました。

「皆が楽しめる幼稚園に」
私は会長の役職を受けた際、最初に園長先生から「園の保護者の間でグループができたり仲間に入れない人が出ないよう気をつけてあげてください」と言われました。



私自身、二人の我が子と通う中で、緑幼稚園の保護者同士の仲が良く、居心地が良いのを感じていましたが、この仲の良さが偶然のものではなく、先生方や保護者の会の先輩方の気遣いと、陰からのお力があってのことだったのだと実感しました。

【皆が楽しめる幼稚園に】

以来、私自身も保護者の会の全員が気持ちよく楽しい幼稚園生活を送

ることができるよう、笑顔の声をかけに気を配り、役員が率先して多くの方と対話をするように働きかけてきました。そして、会員それぞれ的人生経験と、特技や個性を生かしながらの行事運営を心掛けています。

一人一人が自分の持ち味を発揮できる場があることが、子育てを生き生きと楽しむことにつながり、園の行事においても色彩豊かな盛り上がりを見せているのではないかと思っています。

現在は少子化と言われて久しくありますが、緑幼稚園では三人兄弟が普通です。一人っ子や二人兄弟だと「もう一人どう？」と言われ、四人兄弟や五人兄弟も珍しくありません。

登降園時では「ごめんね。うちの子ちよつと見てて」と手から手へ、保護者同士が我が子以外を抱いている姿も毎日の光景です。

【皆が楽しめる幼稚園に】

幼稚園生活は二年間という短い期間ですが、保護者の会の活動や様々な行事を通して保護者自身も大きく成長でき、まるで学生時代の友人関係のような厚い信頼を築くことができる濃い二年間となっています。

私たちはこれからも緑幼稚園の良さを守り継承し、この度の受賞に恥じることなく、会員一人一人が園を修了したのちも地域の中で、子どもたちと共に楽しみながら力を尽くしてまいります。

豊かなかわりを支えるPTA活動

静岡大学教育学部附属幼稚園

副園長 狩野 尚美

この度は、平成二十二年度優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。たいへん光栄なことでございます。

これも、ひとえに創立以来七十余年に及ぶ歴代の保護者や大学関係者、教職員の皆様の築きあげた伝統の賜と存じ、謹んで感謝申し上げます。本園は静岡市中心部より3kmほど北に位置し、附属特別支援学校と同じ敷地内にあります。

通園区域は、園から半径7km以内で、たいへん広い範囲から通園しています。

また、学校教育法に基づく幼稚園教育を行うことに加え、大学の附属幼稚園として、教員養成や保育の理論及び実際に関する研究とその実証を行うという使命があります。

PTAの目的と組織

【目的】幼稚園と家庭との連絡を密にして、相互理解を深め、園児の保育の実を上げる。

【組織】会長、副会長、会計、会計監査、お世話係、四部会(美化・技術・図書・園芸)を置く。

【二人役】で全会員がPTA活動に携わり、園と協力をし、園児のよ

向けて取り組んでいます。PTA活動参加率100%が誇りです

PTA活動について

【四部会の活動】

美化：園の外回りの清掃や水遊び

期間のプール掃除など園内外

の清掃整備。

技術：遊具などのペンキ塗り、園の要望により遊びや生活に必要な物の制作。

図書：絵本の修理、購入、読みかせ、毎週の絵本貸し出し。

園芸：花や野菜苗の購入、植替え、毎日の水やりと管理。

PTA 会員は、この四部のうち一つの部会に所属し担当教員と共に活動を推進します。



園の研究との連携

《食育をととした園と家庭との連携》

平成十七年度の園児の気になる表れとして、朝から元気がなく、室内で過ごすことが多いことや、喧嘩が多

くいららとしている様子が見られるなど、健康で気持ちが良いという実感がもてない幼児が多いことが見えてきました。

そこで、養護教諭が中心になり、聞き取り調査を行いました。すると、10%が朝食を食べていないことや55%が排便なしで登園していることが確認されました。こうした実態から、「幼児の生活リズムを向上させる・食

育者の理解と協力を得て、改善に向けた保育研究に取り組むことになりました。

【食育の試み】

①誕生会 栄養やカロリーのバランスも大切ですが、植物を栽培すること、園内で収穫した果樹や野菜をそのまま食べたり調理して食べたりすることなど、旬の物をその時期に楽しく味わうことを大切に考えました。

②夏みかんマーマレード作り PTA自主活動です。園の夏みかんを収穫、調理をします。収穫量が多い年はジュースを、少ない年はマーマレードを作ります。園児は収穫を手伝ったり調理の様子を見たりして出来上りを待ちます。今年、園児



マーマレード作り

がマーマレードレストランを開店させ、友達だけでなく保護者も招待して楽しみました。

③食育弁当

本学家政教育教授と連携し、季節感あふれる食材や地元の特産物を使った献立を作成、それを地元業者に提供し、弁当作りを依頼しています。

月に二回程度の実践ですが、親子で食べる機会を設けたり、実施日にはサンプルケースで展示を行ったりして、幼児入分の量や食材の大きさなどを実際に見て学ぶ機会になっています。さらに、園長の諮問機関である保健委員会の委員による試食を行います。食材の種類・大きさ・味付けなどについて、感想や意見をいただき、より充実した取組を目指しています。



食育弁当

以上が、PTAと本園の活動の概要です。食育の取組を中心にして、保護者が園の捉える課題を理解し、園児が「人・もの・こと」に豊かにかかわることができるよう、様々な経験の実現に向けて協力をいただき感謝しております。

結びにあたり、この受賞を機会にあらためてよりよい幼児教育の在り方を求め、保護者と教員が手を携えながら、これまでの良き伝統を受け継ぎつつ、地域に愛される園であり続けるよう努力して参りたいと思っております。

響き合おう 子どもと家庭と地域と

香川県宇多津町立宇多津幼稚園

園長 鷲辺 達子

この度の文部科学大臣表彰の栄誉を心から喜ぶと共に、代々のPTAの皆様の熱意ある活動と地域の方々の温かいご支援の賜と感謝しております。

本園は、宇多津町の南部に位置し、町で唯一の公立幼稚園です。創立八十三年を迎え、三歳児二クラス、四・五歳児各一クラス、計七クラス、一五〇名の園児が、もつとなかよくもつとおきく、をスローガンに掲げ、明るく集う歴史と伝統のある幼稚園です。

二人役を合い言葉に

組織は、会長一名、副会長四名(二名はメンスのお父さん、二名は母親クラブ会長一名は庶務を兼ねる)、会計一名、監査二名、学級評議員二十五名(各組三、四名)、給食委員二名が中心となつて構成しています。「二人役」の合言葉のもと、全員が何かの部に所属して年間計画に沿った活動に取り組み、やりがい感を味わうと共に、会員相互の親睦を図っています。西園舎に保護者が打合せや活動に使える部屋があり、園の了解を得て活用しています。

お父さん(メンスの会)の活躍

平成十五年に設立し、全家庭の男性が会員です。年に二度のメンスブレイデー(父親とのふれあい運動会)の企画・準備・運営等全てに当たります。ちなみにこの日は母親の休日となつており、一緒に食べる昼食は、お父さん手作りのおにぎり弁当が定番です。夏休み前のお泊まり保育(年長児五十三名全員が参加)では、飯盒炊さんやキャンプファイヤーに大活躍しました。飯盒の底にこびりついたお米もごしごしと慣れた手つきで手際よく洗い落としてくれました。



メンスブレイデー

また、運動会や表現発表会での活躍に加え、町恒例の秋祭りでは園の太鼓台の組み立てや神社への奉納、園児の誘導等メンスならではの力を発揮しています。

いきいき笑顔の「母親クラブ」

平成八年に設立し、全母親が加入しており、親子や世代間の交流、文化活動、養育や事故防止活動、その他園児の福祉に寄与する活動に取り組んでいます。その幾つかを紹介します。

秋、恒例の「ふれあいバザー」

家庭で不用の日用品や子供用の古着、制服、絵本等提供された物や手作りのお菓子、制作物が販売されます。バザー担当二十八名は提供品の受取り係やポスター作成、レイアウト、値札付け係等を協力して担当します。当日は園外からの来場もあり大盛況です。一番の人気は手作りおやつと絵本バッグや箸袋、シューズ入れ等の手作り品です。手作りのぬくもりを感じさせてくれるからでしょう。



ふれあいバザー

か。収益はボール・遊具の購入など園児のために有効活用されています。

♪お楽しみ会で熱演

恒例の園行事「七夕お楽しみ会」ではクラスから選出された評議員が中心になって、園児の発表に加えて保護者も出し物を考え出演しています。歌や演奏、ダンスや寸劇等アイデア満載で趣向を凝らした物ばかりです。七夕会を盛り上げるだけでなく、練習に取り組み中で保護者同士の交流と親睦、そして団結の二助にもなっています。



えほんママ

みんな大好き「えほんママ」

和やかな雰囲気の中で本やパネルの選定、練習など自主的に取り組んでいます。本好きで子ども笑顔大好きな母親の集まりです。

今年度は卒園ママOBも加わり、総勢二十四名が活動しています。毎月二回、九時から二〇分程度、七学級それぞれの組でえほんママたちが手遊びや歌を交えながら読み聞かせやパネルシアターを行います。また、町の図書館から百冊の絵本を選び、クラスに配布し、貸し出し絵本として活用しており、家庭における読み聞かせの推進にも役買っています。

PTAだよりの発行

毎月発行のPTAだよりは、会長手書きの文面に可愛いカット入りのプリントです。四月の第一号では役員及び各組の評議員の紹介と各係の仕事の概要を説明し、支援と協力を呼びかけました。会長のこの熱意が全会員の園に対する協力体制の源になっています。

また、会員が投稿する機関誌「むつみ」は、保護者が仲睦まじく親しみをもつて活動しようとの願いを込め、年3回発行しています。

受賞を励みに、より一層、園と家庭、地域が響き合い、子ども達を核に、共に育ち合えるPTA活動をめざしていきたいと思ひます。



全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会章

第49回国公立幼稚園PTA全国大会 大阪大会ご案内

大会主題

いま「二十一世紀に生きる君たちへ」
～人をつなぐ 時をつなぐ OSAKAの心～

期日 平成23年8月3日(水)・4日(木)

場所 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)



大阪府 府章

太閤さんの「千成びょうたん」を图案化したものです。大阪(OSAKA)の「O」を基礎にして、希望(明るく)・繁栄(豊かで)・調和(住みよい)を上へ伸びる3つの円で表しています。昭和43年6月21日の「府政100年の日」に定められました。

「大阪大会」に向けて

運営委員長 矢原 健聖

平成二十三年八月三日・四日の二

日間、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)において、第四十九回全国国公立幼稚園PTA全国大会「大阪大会」が開催されます。大会テーマとして、「いま「二十一世紀に生きる君たちへ」(人をつなぐ 時をつなぐ OSAKAの心)」を掲げました。

司馬遼太郎氏の子どもたちへのメッセージ「二十一世紀に生きる君たちへ」には、人・時・心がじつじつかりとつながっていくことの大切さが、心を込めて綴られています。時として、私たちは、遭遇する目の前のできごとに対して、あたかも、一人つきり

で出くわしたかのごとく感じることであります。アングルを変えて表現するならば、「ひとりぼっちだ」と感じてしまうことがあります。

「そんなことは、ないんだな！」

私たちは、「先祖様がいて、そして子宝に恵まれて、PTAの二員として、いま、PTA活動に参加しています。決して、「ひとりぼっち」ではないと思えるのです。それは、血縁だけを強調するのではなく、地縁もまた然りです。眼を閉じて、小さいときからのこ

とを回想してみると、悪戯をしたときカンカンになって叱つてくれた人や、

涙浮かべて困っているときよしよしと助けてくれた人の顔が、はつきりと浮かぶのではないのでしょうか。

そのような人々が時の積み重ねの中でつながり合い、OSAKAのまちをつくりあげました。そして、OSAKAのまちは、それに応えるように、

人と人のつながりを強くしてきました。私たちは、その「OSAKAの心」を、次代を担う子どもたちにつないでいく責務を背負っていると感じています。

東京オリンピックから大阪万博までを一つの象徴として、日本の経済成長は、世界を仰臥させたといわれています。しかし一方では、産業構造や人口分布の変化によって、核家族化や人口構造の激変を招き、「進歩と調和」を具現化し得たとはいえない

現状を招いています。追い打ちをかけるように、グローバル化の波が押し寄せ、人々の心に閉塞感を充満させています。何よりも、そのことが、子どもたちに悪影響を与えてはいないでしょうか。

子どもたちは、私たち大人同士のかわりの一部始終を、私たち以上に観察しています。彼らにとっては、子ども同士のかかわりが自らの成長の証であり、自信づくりの源です。この他者とのかわりは、生活や遊びの中にあり、いくつかの知識や技術によってなされていると考えられます。

そのうち、子どもも大人も他者ともつながり合う知識や技術が、いま、とても大事なこととなっています。そこで、私たちは、「子どもインターフェイス」(「支えつながり・かかわる」)を高めていく大会をめざそうと考えました。

私たちの多くは、先の閉塞感に巻き込まれて、日々の暮らしを送っています。たとえば、その端々で口から洩れる何気ない「言葉」が、子どもたちに、本意ではない気持ちを伝える結果を招いたりします。わかりませんが、それが本意でないことは、同じことは、大人同士、子ども同士においても生じていると思います。

「大阪大会」は、「子どもインターフェイス」(「支えつながり・かかわる」)について、真正面から取り組む大会をめざしています。学習とか勉強とか言っていると、敬遠したくなりますが、一人では学べないことがあることは、ご存知のことでしょう。「言葉」の意味や用途は、一人で学べるかもしれませぬ。しかし、実際の他者との様々なかかわりの中で、生きた「言葉」のキャッ

チボールを学ぶことは、一人ではできないと思います。

幸いなことに、私たちは、いろいろなきっかけを得て、いま、PTA活動に参加しています。言い換えれば、「ひとりぼっち」ではなく、実際に、多くの仲間が目の前にいるのです。私たちは、仲間がいるから学ぶことができるのだと確信しています。

「ひとりぼっち」ではなくて、「つながっている」自身自身を認識し、「子どもインターフェイス」(「支えつながり・かかわる」)を「一緒に高めていきましょう。多くの仲間と共に学ぶために、是非、大阪大会」にご参加ください。

私たちは、「OSAKAの心」で、皆様をお迎えします。

